

「東北学院大学 数理・DS・AIリテラシープログラム」
2024年度自己点検・評価結果報告

東北学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門委員会

自己点検・評価の視点		点検・評価項目	取組と評価	自己評価
学内からの視点				
1	プログラムの履修・修得状況	どれほどの学生がプログラム該当科目を履修・習得しているか <指標> プログラム該当科目の履修者数、修得者数	2024年度履修者数は、2023年度履修者数594名より460名増（増加率77.4％）の1,054名（修得者数923名）となったものの、目標履修者数1,594名に対して、目標達成率は66.1％に留まり、プログラムの履修推進の取り組みに引き続き課題が残った。 2024年度は本プログラムの概要を掲載しているwebページの更新を行ったほか、科目担当教員によっては新入生オリエンテーションなどの機会も活用し、本プログラムの情宣を行ったことが履修者数の増加につながったと考えられるが、さらなる履修者の増加に向けては、情宣機会の増加や周知内容の充実など一層の工夫が必要である。	B
2	学修成果	履修学生がプログラム各要素の知識を身につけているか <指標> 該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の学修成果を問う設問の結果	「授業改善のための学生アンケート」における設問6-1（あなたは、この授業によって得られた成果がありましたか。）については、「大いにあった」「ある程度あった」の回答が「AI社会の基礎」では合わせて94.8％（前年度比1.2ポイント増、以下同じ）、「統計的思考の基礎」では合わせて96.9％（1.9ポイント増）を占め、前年度以上に多くの学生が学修成果を実感している。 同様に、設問6-2（その成果は次のうちどれにあたりますか。）（複数回答）については、「知識の獲得・理解」「技術・技能の習得」の回答が「AI社会の基礎」ではそれぞれ90.1％（6.1ポイント増）、47.0％（0.6ポイント減）、「統計的思考の基礎」では88.6％（10.9ポイント増）、37.9％（0.5ポイント増）となっている。 このことから、履修学生がプログラム各要素の知識を身につけ、学修成果を得られていると実感しており、目標を達成できたと評価できる。	A
3	学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	プログラム該当科目が学生が理解しやすい内容となっているか <指標> 該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の理解度を問う設問の結果	「授業改善のための学生アンケート」における設問5（あなたは、この授業の内容を理解できましたか。）について、「AI社会の基礎」では「よく理解できた」「ある程度理解できた」が合計で96.1％（前年度比0.5ポイント増、以下同じ）を、「統計的思考の基礎」では96.2％（2.5ポイント増）を占めており、大半の学生が授業内容を理解できたと実感できている。 このことから、プログラム該当科目が学生が理解しやすい内容となっており、目標を達成できたと評価できる。	A
4	学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	プログラム修了が学生にとって他の学生に推奨できるものとなっているか <指標> 該当科目の「授業改善のための学生アンケート」の満足度を問う設問の結果	昨年度までは「授業改善のための学生アンケート」における設問12（あなたは、この授業で学んだことがこれからの人生において何らかの形で役立つと思いますか。）の回答を指標としていたが、当該設問がアンケート内容の見直しに伴い削除された。そのため、直接的に他の学生への推奨度を問う設問ではないものの、同アンケートの設問1（この授業を総合評価してください。）を新たな評価指標とした。その結果、「たいへん良い授業だった」「どちらかといえば良い授業だった」の合計は「AI社会の基礎」で91.1％、「統計的思考の基礎」で93.1％であり、90％を超える満足度の高い授業となっていることが確認できた。 このことから、他の学生への推奨度についても一定程度の評価が可能なのではないかと判断した。ただし、他の学生への推奨度を直接的に測ることのできる指標については検討の余地が残る。	A
5	全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラム履修者数、履修率向上に向けた取り組みが図られているか <指標> 履修者増加を図る取り組みの状況	前年度と同様に本プログラムの詳細を掲載したwebサイト「東北学院大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラムについて」「TGU DXポータルサイト」を用いて学生への周知を促した。2024年度は認定科目の担当教員によっては新入生オリエンテーションの機会なども活用して情宣を行った。 また、応用基礎プログラム（全学）申請にあわせ、上記webページの内容を見直し、プログラムを受講することのメリットを記載したほか、修了要件の違いを学生に伝わりやすいように整理するなど、webサイトの充実を図った。 この結果、履修者数は前年度から460名増加しており、履修者数及び履修率向上に向けた取り組みが図られたと評価できる。	A

※2024年度評価基準（S：とても良く達成できた、A：達成できた、B：ある程度達成できた、C：50％以下、D：達成できなかった、E：評価不能）

「東北学院大学 数理・DS・AIリテラシープログラム」
2024年度自己点検・評価結果報告

東北学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門委員会

自己点検・評価の視点		点検・評価項目	取組と評価	自己評価
学外からの視点				
6	プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	プログラム修了者がどのような進路を選び、プログラムで身につけたことを活用できているか <指標> プログラム修了者の進路・就職先と、進路・就職先でのプログラム修了者の評価	2024年度卒業生のうち本プログラム修了者がどのような進路を選んでいるかについて調査を実施した。対象学生1,048名（全卒業生に占める割合41.0％）のうち、就職者数の多い上位５業種は順に「サービス／その他」「製造」「サービス／情報」「小売」「建設」であった。これは、順位こそ違えど、2024年度全卒業生の就職先上位５業種と業種自体は同じであり、本プログラム修了者だからといって進路・就職先に特徴があるわけではないことが分かった。 なお、進路・就職先でのプログラム修了者の評価については、本年度は当該調査は未実施であるものの、卒業生進路・就職先への学修成果調査に新たに設問を設け、今後把握していくことを検討している。	B
7	学術・自治体・産業界からの視点を含めたプログラム内容・手法等への意見	プログラムの内容が学術・自治体・産業界に求められる学修成果を学生に身につけさせられる内容となっているか <指標> 外部評価委員による客観的な評価、学外者からのヒアリング結果等	外部評価については、２年ごとの実施とすることが決定しており、2023年度には2021年度・2022年度事業を対象とした外部評価が実施された。2023年度・2024年度事業の外部評価は2025年度に実施することを予定している。外部評価委員から得られた意見は、外部評価報告書にまとめ、「東北学院大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム専門委員会」へフィードバックを行い、プログラムの改善へとつなげる予定である。	B

※2024年度評価基準（S：とても良く達成できた、A：達成できた、B：ある程度達成できた、C：50%以下、D：達成できなかった、E：評価不能）